

令和元年度病虫害発生予察予報第7号（10月）

令和元年10月7日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
かんきつ類 (温州みかん)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	少(中央) <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> 少(中央)
かんきつ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(西)</u> 、少(東、中央、中西) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、少(西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、平年並(中西)、少(西) <u>やや多(東、中央)</u> 、やや少(中西、西) 少(県下全域)
促成ナス	ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、やや少(中央) 平年並(中央)、やや少(東) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東)

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台10月3日発表）

10月5日から11月4日までの天候の見通し

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	30		30	40
		日照時間	40		30	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		10	20	70	
3～4週目		20		30	50

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：10月5日（土）～11月4日（日）

1週目：10月5日（土）～10月11日（金）

2週目：10月12日（土）～10月18日（金）

3～4週目：10月19日（土）～11月1日（金）

II 病虫害発生予想

1 カンキツ（温州みかん）の病虫害

1) そうか病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 9月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発生程度は平年並であった。

(2) 10月は、天気が周期的に変わるものの、晴れの日が多いと予想されていることや、
時期的に果実の感染リスクは低いことから、少発生の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 発生の多い園では黒点病との防除を兼ねて薬剤散布を行う。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 9月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりもやや低かった。
- (2) 10月は、天気が周期的に変わるものの、晴れの日が多いと予想されていることから、大幅な発生の増加はないと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 9月の調査では、発生面積は平年並であり、密度の高いほ場もなかった。
- (2) 10月は、晴れの日が多く、気温は高めと予想されていることから、発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4) カメムシ類

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 9月の調査では、ほ場での発生は見られていない。
- (2) 越冬世代の発生量が多く、餌となるスギやヒノキの毬果の量も多いことから、繁殖地での発生量が多いと推察されるが、9月のフェロモントラップへの誘殺数は平年に比べて少ないことから、繁殖地からの離脱は進んでいないと考えられる。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。台風などによる強風の後、園地に飛来することもあるので注意する。

2 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（西部）、少（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 9月の調査では、県東部と西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、東部では少なかった。また、発生程度は両地区ともに平年以下であった。
- (2) 10月は、天気が周期的に変わるものの、晴れの日が多いと予想されていることや、時期的に果実の感染リスクが低いことから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 発生の見られる園では黒点病との防除を兼ねて薬剤散布を行う。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、やや多（東部）、少（西部）

根 拠

(1) 9月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年より多く、東部でやや多く、西部では少なかった。また、発病程度は中西部で平年よりもやや高く、その他の地域では平年以下であった。

(2) 10月は、天気が周期的に変わるものの、晴れの日が多いと予想されていることから、大幅な発生の増加はないと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部）、平年並（中西部）、少（西部）

根 拠

(1) 9月の調査では県東部、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度は全般的に平年以下であった。

(2) 10月は、天気が周期的に変わるものの、晴れの日が多いと予想されていることから、発生の増加はほとんどないと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（東部、中央部）、やや少（中西部、西部）

根 拠

(1) 9月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は、県東部、中央部で平年並、中西部、西部では平年よりも少なかった。発生程度は全般的に平年よりもやや低～低めであった。

(2) 10月は、晴れの日が多く、気温は高めと予想されていることから、発生は増加するものと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 9月の調査では、ほ場での発生は見られていない。

(2)越冬世代の発生量が多く、餌となるスギやヒノキの毬果の量も多いことから、繁殖地での発生量が多いと推察されるが、9月のフェロモントラップへの誘殺数は平年に比べて少ないことがら、繁殖地からの離脱は進んでいないと考えられる。

対 策

(1)果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。台風などによる強風の後、園地に飛来することもあるので注意する。

3 促成ナス

1) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多（東部）、やや少（中央部）

根 拠

(1)9月の調査では、県東部で発生面積が平年よりも多く、発生程度もやや高かった。中央部での発生は少なかった。

(2)10月は、晴れの日が多く、気温は高めと予想されていることことから、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。

(2)薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）

根 拠

(1)9月の調査では、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、県東部で平年並、発生程度は両地区とも平年よりもやや低かった。

(2)10月は晴れの日が多く、気温は高めと予想されていることことから、発生は増加基調であるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメなどの天敵類が導入されており、天敵類の密度も高まると見込まれることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

(1)防除効果が高い薬剤が少ないので、開口部のネット被覆（1mm目以下）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。

(2)薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部）、やや少（東部）

根 拠

(1)9月の調査では、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は両地区ともに平年以下であった。

(2)10月は晴れの日が多く、気温は高めと予想されていることことから、発生は増加基調であるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメなどの天敵類が導入されており、天敵類の密度も高まると見込まれることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 防除効果が高い薬剤が少ないので、開口部のネット被覆（0.4mm目以下が望ましい）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期に生長点付近を中心に防除を行う（成虫は新葉の葉裏に産卵する）。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.